

江戸川流域の水害を防ぐために



昭和22年9月、カスリーン台風による洪水で壊滅的な被害を受けた大沢町(現越谷市) 写真:埼玉新聞社

自然の脅威は時に、人進め川や流域の安全性を智をはるかに超える規模 高めるだけでは、暮らしで襲いかかって来る。排を確実に守ることはできず、水対策や堤防強化などを怠らぬ。

ハザードマップを活用し、防災情報を避難に生かそう

しかし、適切で安全な避難ができれば生命を守ることはできる。最悪の事態にだけは陥らないよう普段から備えておくことが大切だ。その1つが洪水ハザードマップの活用。浸水想定区域など基本となる情報を国土交通省が作成し、市町村が避難場所や避難方法、浸水する地域や水深などの具体的な情報をまとめ、住民へ配布している。重要なことはハザードマップを普段から活用することだ。避難場所を確認しておくのはもちろん、避難経路を実際に歩き地形や避難にかかる時間、危険箇所などを確認しておきたい。

「越谷には洪水ハザードマップが河川毎に4種類もあることや、自宅が浸水地域にあることを初めて知り、水害の危険性を実感しました。万が一に備えて、避難場所や経路を確認する良い機会になりました」

ハザードマップで万々に備えよう

菊池雅彦さんご一家(越谷市)

家族で話し合いを持った菊池雅彦さんご一家。想定される自宅の浸水深は1.2mで、1階部分は水に浸かってしまう。早めに避難所に行くか、状況によっては自宅の2階で待機した方が安全かもしれない。これを機に「長女の通う中学校に避難することは決めていますが、冠水すれば道路の状況は分からない。小の長男の身長を考えると早めに行動しなくてはなりませんね」



避難場所や経路について家族で話し合うことも多いはず



中川・綾瀬川流域は、利根川や江戸川、荒川の大川に囲まれていることが分かる。堤防強化のほか、放水路や排水機場の整備など洪水の排水対策が進んでいる

江戸川流域の排水機場(庄和三郷八潮)が浸水被害を大幅に軽減

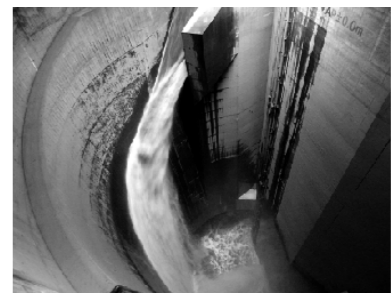
3月に発生した東日本大震災。埼玉県内の国管理区間の江戸川・中川・綾瀬川では、幸手市の江戸川堤防が200mに渡り陥没するなど18箇所堤防の亀裂や崩壊などが発生した。被災箇所は応急的に6月からの出水期前に修復している。人口や資産が集積している江戸川流域で万一、堤防が決壊すれば甚大な被害が想定されるため、さまざまな治水対策が行われている。

埼玉県東部、中川・綾瀬川流域は利根川、江戸川、荒川の大川に囲まれ、古くは洪水常襲地帯だった。勾配が緩やかで洪水が流下しにくいため、流域では今、周囲の大川に洪水を排水する放水路や排水機場の整備が行われている。中でも首都圏外郭放水路1は世界最大級の地下放水路で、中川・綾瀬川に洪水を取り込み江戸川へ排水する。2さらに江戸川、中川、綾瀬川は放水路によって結ばれ、3河川の連携によって洪水防止などの効果が発揮する。

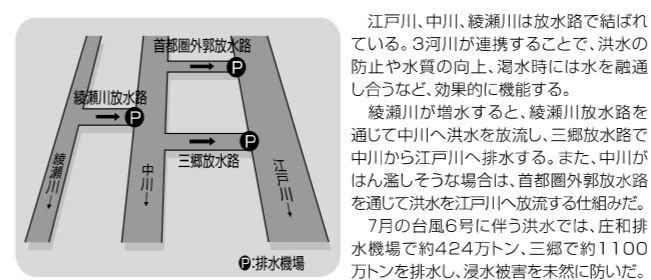
洪水を強制的に排水する排水機場は、国が管理する施設が流域に7カ所。なかでも庄和三郷(首都圏外郭放水路)、八潮(綾瀬川放水路)などの排水機場は国内屈指の規模を誇っている。これらの対策によって、流域の浸水被害は大幅に軽減されている。また、深谷市から吉川市までの利根川、江戸川の右岸(埼玉側)では堤防の断面積を大きくし、浸透による堤防の決壊を防ぐ首都圏氾濫区域堤防強化対策が進んでいる。

1 首都圏外郭放水路

雨水が一気に川へ流れ込むのを流域全体で防ぐ(中川・綾瀬川総合治水対策)。首都圏外郭放水路(写真)は、その柱として被害軽減に大きな効果を与えている。この放水路は中川、倉松川、大落利根川などの洪水を地下50m、直径約10m、総延長6.3kmのトンネルに取り込み、江戸川へ排水する「地下の川」。洪水調節の実績は、平成14年の部分通水から今年8月までで66回にも及び、被害を確実に軽減してきた。



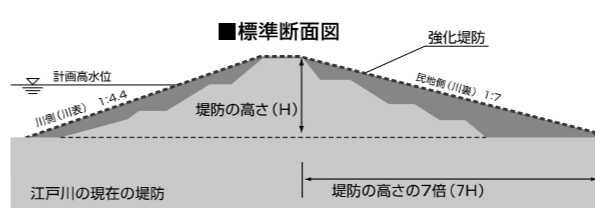
2 江戸川、中川、綾瀬川の連携



江戸川、中川、綾瀬川は放水路で結ばれている。3河川が連携することで、洪水の防止や水質の向上、渇水時には水を融通し合うなど、効果的に機能する。綾瀬川が増水すると、綾瀬川放水路を通じて中川へ洪水を放流し、三郷放水路で中川から江戸川へ排水する。また、中川がはん濫しそうな場合は、首都圏外郭放水路を通じて洪水を江戸川へ放流する仕組みだ。7月の台風6号に伴う洪水では、庄和排水機場で約424万トン、三郷で約1100万トンを排水し、浸水被害を未然に防いだ。

3 首都圏氾濫区域堤防強化対策

国土交通省は、利根川上・中流部から江戸川の右岸堤防の強化対策を進めている。近年でも洪水時に堤防から漏水が発生するなど、決壊の恐れがある堤防の強度不足が指摘されているからだ。対象となるのは首都圏氾濫区域に当たる深谷市から吉川市までの約70km。堤防幅を現在より30~40mほど広げ、堤防の高さに対して7倍の幅を持つ緩やかな法面にする。堤防を拡幅することで、堤防内や地盤への浸透水を抑え込み漏水を防ぐ。

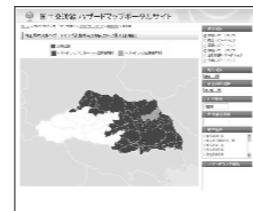


5 防災情報を入手するには...



江川河川事務所HP「河川情報」
<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/>

4 洪水ハザードマップはお住まいの市役所などで入手できます!



国土交通省のハザードマップポータルサイト
<http://disaportal.gsi.go.jp/>

6 川の水位と避難行動を知ろう

国土交通省・県と気象庁は、はん濫の危険が高まる「洪水予報」を発表する。一方、これを受けて住民に対して「避難指示」などを発令するのは市町村の役割。発令される「指示」や「警告」にどんな意味があるのかをよく理解し、安全を確保して速やかに行動を起こすことが大切だ。

河川の水位	国・県	市町村長	住民
はん濫危険水位(危険水位)	国土交通省・気象庁・県が発令する情報	避難指示	早急に避難を完了してください。
避難判断水位(特別警戒水位)	はん濫警戒情報(洪水警戒)	避難勧告	速やかに避難を始めてください。
はん濫注意水位(警戒水位)	はん濫注意情報(洪水注意情報)	避難準備情報	避難の準備をしましょう。高齢者や子どもは早めの避難を。
水防団待機水位(通報水位)	水防団出動の目安となる水位		
平常高水位			

